

課題研究の題名の作り方

優れた課題研究の題名とは何か？

- ・題名を見ただけで研究の方向性が理解できる。
- ・読者に寄り添ったわかりやすい題名になっている。
- ・長すぎない&短すぎない。

悪い例

「林業のまちづくりの考察」

- 林業とまちづくりというキーワードが入っているものの、一体どこにおける林業とまちづくりを研究するのかがわからない。
- 課題研究には、なんらかの考察が入っているもので、どのように考察するのかを書く方がよい。
- 題名の長さも少し短い。研究内容を理解してもらえよう、もう少し題名を有効活用したほうがよい。

良い例

「農村地域の林業とまちづくり活動の関係の構造分析 -岐阜県揖斐郡大野町の事例から-」

- 悪い例にはなかった調査対象地を指す言葉として「農村地域の」が最初に入っている。
- 考察ではなく「関係の構造分析」としたことで、対象が抱える関係性の構造を分析することが明確になっている。
- サブタイトルとして地名を挙げることで、研究対象がより具体的になっている。「農村地域の」だけではまだわかりにくいいため、サブタイトルによって補った形。このようにサブタイトルを有効に活用すると、より優れたタイトルに近づけることができる。

例

「水流膜の原理」

「椅子の騒音の原因解明と改善」

「時代と絵本の関わり

-1960年代と2000年代の絵本

から読み解く価値観の変化-